

## 第1回部会（H30.7.2）における意見への対応状況

## 【地域保健福祉部会】

NO	委員名	意見	対応方針・対応	分類
1	笹原委員	新しい人が地域振興会（町会）に入らず、町会費を出さなくても、街灯は点いているといったような受益を受けて生活できる現実がある。 事業の運営についても一部の人が行き、昔と変わらない状況しか見えない部分があると思う。町会費を払わないと受けられないのが本当で、受益者負担になっていけない限り、これから運営できないと思う。	転入者向けリーフレットを作成し、地域振興会（町会）をはじめ様々な地域団体の加入促進に取り組むとともに、地域振興会（町会）活動等に関する情報提供を広く区民に対して行っていく。	①
2	伴委員	地域活動協議会の立ち上げ以前から行っている事業が、現在は地域活動協議会の活動として行われているが、そのことが地域住民には伝わっていないことがある。	地域活動協議会の認知度向上のため、まちづくりセンターと連携して、様々な機会を通じて活動内容等の周知を図っていく。	①
3	久木委員	昨年実施された「TSURUMIC AWARD」はビジュアル面に評価の重点が置かれ過ぎていた。発行回数が多い広報紙より、発行回数が少なくビジュアルに注力した広報紙が評価されていた。この評価方法が地域活動協議会の認知度向上につながるか疑問である。	「TSURUMIC AWARD」は昨年初めて開催した事業であったが、各地域の広報力や意識向上につながり、地域住民への情報伝達力・関心度が高まり、一定の認知度向上につながったと考える。 今年度は、前回評価項目の見直しや新たな題材を取り上げることなども含め、より地域住民の関心度がアップするような企画を検討し、各地域活動協議会の協力のもと実施していく。	①
4	山田委員	今でも、地域振興会（町会）への思い入れを持った人もいる。地域活動協議会の事業でも、町会長が一番活動してくれているが、地域活動協議会の会議の場では地域振興会も構成団体の一つであるという認識にゆっくり変えていかないとけない。	地域活動協議会は、防犯・防災、子ども・青少年、福祉、健康、環境、文化・スポーツのすべての分野において、広く住民全般を対象として市民活動を行うことを目的としているため、民主的で開かれた話し合いを通じて、活動の糸口を見出していくことが重要である。	①

## ※分類欄

- ①当年度(30年度)において対応
- ②31年度運営方針に反映または31年度に対応予定
- ③31年度では対応できないが、今後引き続き検討
- ④対応困難または対応不可
- ⑤その他

NO	委員名	意見	対応方針・対応	分類
5	久木委員	<p>地域活動協議会の役割は、高齢者への支援と考えるが、地域活動協議会の活動の分野に福祉がない。</p> <p>住民主体の地域福祉ネットワーク活動推進事業の業務に関して、中でもつなげ隊の活動が非常にわかりにくいものとなっている。事業の検証は出来ているのか。また、つなげ隊は地域活動協議会で役割が果たしているのか。</p>	<p>・委託先である鶴見区社会福祉協議会からその都度進捗状況の報告を受け、CSW やつなげ隊の活動状況、あいまの運用など課題があれば協議を行っている。年度の終わりには一年間の事業の振り返りを行い、事業実施報告書を提出してもらっている。本事業を推進するにあたり、地域が主体的に活動できるようにするため、各地域活動協議会の意見や次回の区政会議全体会において意見をいただきながら、地域活動協議会に対する一括補助にむけた検討をしていく。</p> <p>・地域福祉コーディネーター（つなげ隊）は、各地域活動協議会の運営委員会の委員や事務局として地域活動協議会ごとに活動されている。また、つなげ隊として連絡会を毎月行い各地域の福祉ニーズをキャッチし共有しており、各地域ネットワーク委員会の中心的な役割を担っていただいている。</p> <p>引き続き、つなげ隊の認知度向上や、見守り活動などの周知を支援していく。</p>	① ②
6	笹原委員	<p>区民アンケートでは、つなげ隊の認知度が低いとのことだが、鶴見区全域での数値である。地域別の認知度を数値化すべきではないか。</p>	<p>無作為抽出により実施している区民アンケートの地域別データを分析・検討し、その結果を区政会議で提供していく。</p> <p>なお、地域単位の福祉活動（ふれあい喫茶）などでの参加者アンケート結果によると認知度は高い。</p>	①
7	笹原委員	<p>プレマクッキングについて、土曜日に開催したことにより、夫婦での参加が3組あった。料理教室に加え、胎児へのたばこの影響についても話ができ有意義であった。このような取組みを続けてほしい。</p>	<p>区役所では、プレマクッキングの他、様々な方を対象者に、内容を工夫し、食推協の皆さんと一緒に食育に関する事業を実施している。今年度は、男性のための料理教室を休日開催することで、働く世代の方へもアプローチしていく予定である。</p>	①
8	高田委員	<p>食育フェスタ・健康展の満足度について、参加者へのアンケートということなので、目標を少し上げてもいいと思う。</p>	<p>すこやかパートナー企業・関係機関の協力も得ながら、自分の健康状態を数値でみる、体に良いものを試食してみるなど、体験型のブースをより充実させ、参加者満足度100%をめざす。</p>	①

※分類欄

- ①当年度(30年度)において対応
- ②31年度運営方針に反映または31年度に対応予定
- ③31年度では対応できないが、今後引き続き検討
- ④対応困難または対応不可
- ⑤その他